実技特別選抜

音楽学部の音楽実技を軸とした特別選抜です。
音楽学部音楽学科の入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）を確認のうえ出願してください。

1. 募集人員

若干名

2. 選考方法

	書類審査（調査書、志望理由書）	音楽実技等※1	面　接
大　学 音楽学部 音楽学科	○	○	○

※１　音楽実技等の詳細は、音楽実技等課題（P.28 ～ P.31）を参照してください。
＊書類審査における、調査書、志望理由書等は、合否判定における総合的判断に活用します。

3. 出願資格

次のいずれかの項目に該当する女性であること。

1）高等学校または中等教育学校を卒業した人、および令和６年３月に卒業見込の人
2）通常の課程による 12 年の学校教育を修了した人、および令和６年３月に修了見込の人
3）外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した人、および令和６年 ３月修了見込の人。またはこれに準ずる人で文部科学大臣の指定した人
4）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した人、および令和６年３月修了見込の人
5）専修学校の高等課程（修業年限が ３年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した人
6）文部科学大臣の指定した人（昭和 23 年文部省告示第 47 号）
7）高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第１号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した人、および令和６年３月までに合格する見込の人
8）学校教育法第 90 条第 ３項の規定により大学に入学した人であって、当該者をその後本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた人
9）本学において、個別の入学資格審査※により高等学校を卒業した人と同等以上の学力があると認めた人で、令和６年３月 31 日までに 18 歳に達する人
※個別の入学資格審査については P.53 参照。

4. 入試日程・時間割

入試日程等

願書受付期間（必着）	入試日	試験場	合格発表	入学手続期限（必着）
2月20日（火）～3月5日（火）	3月11日（月）	大学キャンパス	3月15日（金）	3月21日（木）

試験時間割

試験場	試験室入室	「音楽実技等」、「面接」
大学キャンパス	10：00 まで	10：30 ～

※音楽実技等、面接の開始時間は、受験番号によって異なります。
※音楽学部音楽学科（プロ・アーティストメジャー）を受験して不合格になった場合でも、音楽学科として合格になる場合があります。

令和6年度　音楽学部 音楽学科　音楽実技等課題

学校推薦型選抜（公募制）

次の A、B いずれかを選択する。

A. 下記の中から選択して任意の 1 曲を演奏する。
　声楽・ミュージカル（ヴォーカル）・ピアノ・電子オルガン・パイプオルガン・管楽器・弦楽器・打楽器

B. 自分で制作した音楽作品を提出する。

A に関する注意事項

※1　暗譜の必要はない。
※2　場合によっては、曲の途中で演奏を終了してもらうことがある。
※3　声楽・ミュージカル（ヴォーカル）を選択した場合は、伴奏譜に氏名を記入の上、出願時に提出すること。ピアノ伴奏は大学側で担当する。
※4　ミュージカル（ヴォーカル）を選択し、ピアノ伴奏以外の音源を使用する場合は、出願時に音源の種類を記入し当日持参すること。
※5　楽器は原則として各自で持参すること。ただし、大型楽器については事前に本学教育支援課音楽支援グループ（音楽学部事務室）に問い合わせること（日・祝日を除く）。TEL.047-703-0111（直通）
※6　ピアノ・電子オルガン・パイプオルガン・管楽器・弦楽器・打楽器を選択する場合は、使用している楽譜を持参のこと。
※7　打楽器は小太鼓またはマリンバで受験すること。本学の楽器を借用することは可。希望者は事前に申し出ること。
※8　上記以外の楽器等での受験の場合は事前に本学教育支援課音楽支援グループ（音楽学部事務室）に問い合わせること（日・祝日を除く）。TEL.047-703-0111（直通）

B に関する注意事項

※　自分で作曲または編曲した作品の楽譜か録音物、あるいはシーケンスデータ（MIDI ファイル）を願書とともに提出する。編曲の場合には、参考にした楽譜を添付すること。

一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、実技特別選抜

次の A、B いずれかを選択する。

A. 下記の中から選択して任意の 1 曲を演奏する。
　声楽・ミュージカル（ヴォーカル）・ピアノ・電子オルガン・パイプオルガン・管楽器・弦楽器・打楽器

B. 自分で制作した音楽作品を提出する。

A に関する注意事項

※1　暗譜の必要はない。
※2　場合によっては、曲の途中で演奏を終了してもらうことがある。
※3　声楽・ミュージカル（ヴォーカル）を選択した場合は、伴奏譜に氏名を記入の上、出願時に提出すること。ピアノ伴奏は大学側で担当する。
※4　ミュージカル（ヴォーカル）を選択し、ピアノ伴奏以外の音源を使用する場合は、出願時に音源の種類を記入し当日持参すること。
※5　楽器は原則として各自で持参すること。ただし、大型楽器については事前に本学教育支援課音楽支援グループ（音楽学部事務室）に問い合わせること（日・祝日を除く）。TEL.047-703-0111（直通）
※6　ピアノ・電子オルガン・パイプオルガン・管楽器・弦楽器・打楽器を選択する場合は、使用している楽譜を持参のこと。
※7　打楽器は小太鼓またはマリンバで受験すること。本学の楽器を借用することは可。希望者は事前に申し出ること。

B に関する注意事項

※　自分で作曲または編曲した作品の楽譜か録音物、あるいはシーケンスデータ（MIDI ファイル）を願書とともに提出する。編曲の場合には、参考にした楽譜を添付すること。

プロ・アーティストメジャー

下記の種目のいずれか１つを選択する。

●声楽

I. 専門実技：歌曲あるいはアリアより任意の３曲を演奏する（日本歌曲を含む。10 分以内）。

※アリアについては原調のこと。
※歌詞は原語、暗譜で演奏のこと。
※伴奏譜に氏名を記入の上、出願時に提出すること。
※ピアノ伴奏は大学側で担当する。
※演奏を 10 分以内に収めるためのカットは自由。

●ミュージカル

I. 専門実技：次の①、および②を行う。

①ヴォーカル：任意のミュージカル・ナンバー２曲を演奏する。

※歌詞・調性は自由、暗譜で演奏のこと。
※ピアノ伴奏は大学側で担当する。伴奏譜に氏名を記入の上、出願時に提出すること。
※ピアノ伴奏以外の音源を必要とする場合は、出願時に音源の種類を記入し、当日持参すること。

②以下のＡ、Ｂ、Ｃから２つ選択する。

Ａ．朗読：任意の詩または台詞を朗読する（1 分程度）。

※暗記の必要はない。
※朗読原稿に氏名を記入の上、出願時に提出すること。

Ｂ．ダンス：内容は自由（２分程度）。

※動きやすい服装で受験すること。
※出願時に音源の種類を記入し、当日持参すること。

C．演技：当日出題された課題を演じる。

●ピアノ

I. 専門実技：下記の①～⑥を課す（①～④は暗譜で演奏のこと）。

① F. ショパン：エチュード　Op. 10 または Op. 25 より１曲（Op. 10-6、Op. 25-7 を除く）。

②以下のＡ、Ｂから１つ選択する。

Ａ．J. S. バッハ：平均律クラヴィーア曲集より１曲（前奏曲とフーガ）。

Ｂ．下記の作曲家の練習曲集より１曲 。
F. ショパン、R. シューマン、F. リスト、C. ドビュッシー、S. ラフマニノフ、
A. スクリャービン、S. プロコフィエフ、B. バルトーク

③ L. v. ベートーヴェンのピアノソナタより任意の第１楽章（Op. 49-1、Op. 49-2、Op. 79 は除く）。

※ Op. 27-1、Op. 27-2、Op. 101、Op. 109 については第１～２楽章を続けて演奏すること。

④自由曲 12 分以上。

※複数の作曲家の作品を組み合わせてもよい。
※③の L. v. ベートーヴェンのソナタの残りの楽章を含めてもよい。
※くり返しはなし。ただし、D. C. 、D. S. 、8 小節以内の短いくり返しを除く。
※出版されている作品に限る。
※ソナタの楽章抜粋、小品集、組曲からの抜粋は認める。変奏曲からの抜粋は認めない。

⑤口述試問：演奏した作品に関して、音程、音階、調性、和音、楽語についての試問を行う。

⑥初見演奏：新曲視奏（16 小節程度、大譜表による）。

●電子オルガン

I. 専門実技：下記の①～④を演奏する（暗譜の必要はない）。

①課題曲：エレクトーン・クラシック曲集　グレード５級、または４・３級（一般財団法人ヤマハ音楽振興会発行）より任意の１曲。

②自由曲：グレード５～３級表示の独奏曲（出版社は問わない）あるいは自編曲・自作曲による独奏曲１曲。

※自編曲・自作曲については、試験当日に楽譜を提示のこと。

③初見演奏：新曲視奏（8 ～ 16 小節、３段譜による）。

④即興演奏：16 小節程度のコードネーム付き旋律を即興的に編曲演奏する。

●パイプオルガン

I. 専門実技：下記の①～③を演奏する（暗譜の必要はない）。

① J. S. バッハのオルガン曲（ペダルの有無は問わない）より任意の 1 曲。

②自由曲：自分の得意な時代分野のオルガン曲（ただし、オリジナル曲に限る）より任意の 1 曲。

※レジストラントは大学側で担当する。

※事前練習の時間を与える。

③初見演奏：４声体コラールの視奏（10 ～ 16 小節程度、大段譜による）。

●管楽器

I. 専門実技：下記の曲を演奏する（指定の無い限り版およびカデンツは自由。暗譜の必要はない）。
無伴奏で演奏する。

フルート
W. A. モーツァルト：フルート協奏曲第 1 番 G-Dur KV313 より第 1 楽章（カデンツ付き）
または
W. A. モーツァルト：フルート協奏曲第 2 番 D-Dur KV314 より第 1 楽章（カデンツ付き）

オーボエ
F. J. ハイドン：オーボエ協奏曲 C-Dur より第 1 楽章（カデンツ付き）
または
L. A. ルブラン：オーボエ協奏曲 第 1 番 d-Moll より第 1 楽章（カデンツ付き）

クラリネット
C. M. v. ウェーバー：クラリネット小協奏曲 op. 26

ファゴット
C. シュターミッツ：ファゴット協奏曲 F-Dur より第 1 楽章（カデンツ付き、Sikorski 版）

サクソフォン
A. グラズノフ：サクソフォン協奏曲 冒頭からカデンツの最後まで
または
P. クレストン：サクソフォン・ソナタ op. 19 より第 1 楽章

ホルン
W. A. モーツァルト：ホルン協奏曲第 2 番 Es-Dur KV417 より第 1 楽章
または
W. A. モーツァルト：ホルン協奏曲第 4 番 Es-Dur KV495 より第 1 楽章（カデンツ付き）
または
R. シュトラウス：ホルン協奏曲第 1 番 Es-Dur op.11 より第 1 楽章

トランペット
T. シャルリエ：36 の超絶技巧練習曲（Leduc 版）より第 2 番
または
T. シャルリエ：演奏会用独奏曲

トロンボーン
・テナー・トロンボーン
E. ザクセ：小協奏曲 B-Dur（International Music Company 版）
・バス・トロンボーン
E. ザクセ：協奏曲 F-Dur（バス・トロンボーン用、Zimmermann 版）

ユーフォニアム
P. V. デ・ラ・ヌー：コンサート・ピース

テューバ
M. アーノルド：ファンタジー オブ テューバ（楽器の指定なし）

●弦楽器

I. 専門実技：下記の曲を演奏する（指定の無い限り版およびカデンツは自由。暗譜の必要はない）。
無伴奏で演奏する。

ヴァイオリン
W. A. モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第 3 番 G-Dur KV216 より第 1 楽章（カデンツ付き）
または
W. A. モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第 4 番 D-Dur KV218 より第 1 楽章（カデンツ付き）
または
W. A. モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第 5 番 A-Dur KV219 より第 1 楽章（カデンツ付き）

ヴィオラ
C. シュターミッツ：ヴィオラ協奏曲第 1 番 D-Dur より第 1 楽章（カデンツ付き）

チェロ
F. J. ハイドン：チェロ協奏曲第 1 番 C-Dur より 第 1 楽章（任意のカデンツ付き、ヘンレ版）
または
F. J. ハイドン：チェロ協奏曲第 2 番 D-Dur より 第 1 楽章（任意のカデンツ付き、ヘンレ版）

コントラバス
G. A. カプッツィ：コントラバス協奏曲 F-Dur より第 1 楽章
または
V. ピフル：コントラバス協奏曲 D-Dur より第 1 楽章

●打楽器

I. 専門実技：下記の曲を演奏する（指定の無い限り版およびカデンツは自由。暗譜の必要はない）。
無伴奏で演奏する。

小太鼓での受験
S. フィンク：小太鼓組曲 より 1. Intrada, 2. toccata, 3. mista, 5. marcia

マリンバでの受験
三木稔：マリンバの時

●コンピュータ音楽制作

I. 専門実技：下記の①、および②を課す。
①自分で作曲または編曲した作品の楽譜か録音物、あるいはシーケンスデータ（MIDI ファイル）を願書とともに提出する。編曲の場合には参考にした楽譜を添付すること（提出作品の返却はしない）。
②口述試問：提出された作品に関する簡単な試問を行う。

令和６年度　音楽学部　音楽学科　動画提出について

学校推薦型選抜（公募制）における音楽実技等・面接、大学入学共通テスト利用選抜・一般選抜における音楽実技等は動画提出にかえることができる。動画提出の方法と内容については、願書受付期間前に本学教育支援課音楽支援グループ（音楽学部事務室　TEL.047-703-0111）に問い合わせること。

音楽学部　音楽系部活動　顧問推薦制度

学校推薦型選抜（公募制）では、音楽系部活動顧問推薦制度にて出願をする場合、音楽学科への推薦条件のうち、学習成績の状況の条件を除外して出願することを認める。顧問推薦書（様式Ⓚ）を顧問が記入し、出願時に他の出願書類に同封して提出することが必要。